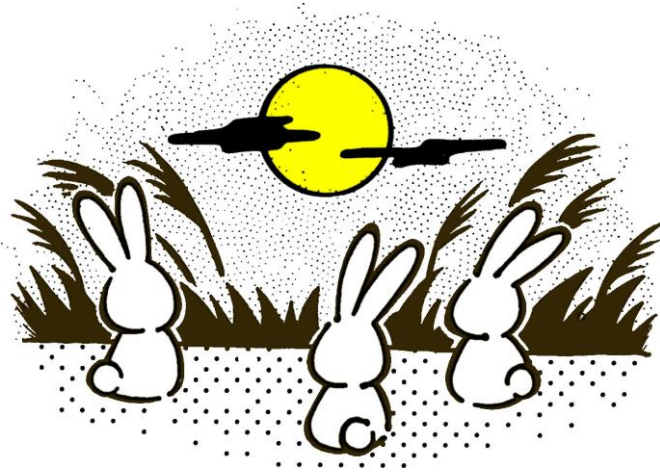


# 宿縁

九月号

## 心の居場所が ありますか



ご法事でお参りに来られる中で何か一番うれしいかといえば、世代を超えてお年寄りも若いものも幼きものも一緒にになってお参りされる風景です。

私も僕も一人で生きているんじゃないよ！みんな繋がっているんだ！という事をしっかりと目で確かめる大切な場なのです。

少子化だとか家族が一緒に住んでいないからとか理屈付けは何でもできますが、人間は自分から始まり自分で終わるなどと大切に

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派  
**中原寺**

TEL 〇四七―三七二―〇二九二  
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

な命のバトンタッチを拒否する原因を大人たちが作ってはいないでしょうか？

人生の意味、いのちの尊さを教えるのは学校でも会社でもありません。はっきりと目に見えるものではなく、誰もが何となく心に肯かせるものを育ててくれるのは仏事の世界です。仏事の世界は勝ち負けとか、損得とか、偉いとか偉くないとかを教える世界ではありません。そういうことに疲れる世間の営みを離れてほつと心に灯がともる安らぎの時間と場です。

不慣れた生活と娯楽の少ない時代と平均寿命が短い時代を生きた先人たちは、理屈で生きたのではなく、何ものをも体で受けとめて知って目に見えない世界をこそ大切にしてきました。

今日、分断家族・分断社会・国家の分断現象はひしひしと身近に感じられます。日本に伝えられた仏教経典の中で精神界に大きな影響を与えた一つに『涅槃経(ねはんぎょう)』があります。

このお経は、如来の身は永遠で不変であること。一切衆生悉有仏性(あらゆるいのちあるものは如来が与えられたさとりの得る性質)を持つていること。さらにさとりを求める心が閉ざされた者「一闍提(いつせんだけい)」も、如来の光明に遇って浄土に生まれて仏に成ることができると説かれていま

次の句は、室町期の僧で親交が深かったと伝えられている蓮如上人と一休禅師の間に交わされたという短歌による問答です。

阿弥陀には まことの慈悲はなかりけり  
たのむ衆生をのみぞたすくる

(一休さんから蓮如さんへ)

阿弥陀には へだつる心はなけれども

蓋ある水に 月は宿らじ

(蓮如さんから一休さんへ)

一休さんが、「平等に救うといわれた阿弥陀が、「信心がないものに慈悲の心を与えないのはおかしいではないか」と問いただしたところ、「阿弥陀さまはあらゆる人びとに分け隔てなく平等にお慈悲のハタラクを常に放っておられます」と返されました。そのお心を、蓮如さんは月に例えてお示しになったのです。月の影は、どんなところにも宿っています。奇麗な海、川、湖や水田、泥やどぶにまみれた池や沼、それこそ茶碗の中の水にまでも月は自身の姿を映します。ところが、月が放つ光をさえぎる蓋のような猜疑心、すなわち遮ってしまう私たちの自力(人間の)は(からい)の心が邪魔すると月影が映らなくなってしまう。この疑いの心である蓋が、月の光をとどかないようにしてしまうのが原因です。

親鸞聖人の師である法然聖人もこう詠まれています。

月影のいたらぬ里はなけれども

ながむる人の心にぞすむ

秋は特に月が美しく感じられる季節です。ところが夜、学習塾に通う子どもたちは月を見ることもしないといえます。月の存在は月

が放つ月光によって知らされるのですが、目には見えない心に映る姿を教えないのは何とも恐ろしい時代になりました。

仏教は少しも難しい教えではありません。難しくしているのは世間を生きるモノサシで教えを聞くからです。

お寺にお参りにきて聴聞する目的は「解決」ではなく『安心』を求めることです。なぜなら人は悩みが解決したと思つたとたん、また別の悩みが生まれ、その解決のため奔走しなければならなくなり「不安」になるからです。そう考えると、「不安という厄介な、代物は、この世に生きていく限り常につきまとい、そのすべてを消し去ることができないのです。ゆえに不安をかかえたまま今を生きて、生かされていることに気づかされ『常につき離れることがない影となり形となつて間違ひなく救いとるぞ！』との仏恩に感謝するしかありません。

親鸞聖人は五百数十首も詠まれた「和讃」の中で、現世利益和讃十五首を残してくださいました。そして南無阿弥陀仏を称えればよるひる常に(念仏の人を)護るなりとおっしゃっています。

南無阿弥陀仏をとなふれば

十方無量の諸仏は

百重千重圍繞(とりかこまれ)して

よろこびまもりたまふなり

これ以上のよろこびはありませんか。この私の周囲のものすべてはみな仏さまといただいたら柔和な世界に立たされま

【寺灯雑記】

○孟蘭盆会法要・戦没者追悼法要勤修

8/11

孟蘭盆会の期間（八月十三〜十六日）を前にした、十一日にお盆の法要をお勤めいたしました。

毎年、孟蘭盆会法要に併せて全戦没者追悼法要を勤めておりますが、今年に入り、ロシアのウクライナ侵攻の様子が連日報道されていることもあり、例年以上に平和を願うすべての戦没者への思いを新たにしました。

讃仏偈と重誓偈の読経に引き続き、岩佐准光師（中野区 正行寺）よりご法話をいただき、浄土真宗におけるお盆の意義や迷いの中に身を置いておられるのは亡き人ではなく、娑婆世界にいる私であることをお話しいただきました。

また、「納棺夫日記」などの著者として知られ、住職継職法要など何度も中原寺にご出講いただき、八月六日にご往生された青木新門さんを偲び、前住職より先生の生前のお言葉や思い出をお話いたしました。

改めて青木先生が繰り返しおっしゃられていた、「いのちのバトンタッチ」ということを深く受け止めさせていただき、生前多くのお育てをいただいたことを感謝申し上げます。

\*追悼 青木新門先生の言葉

「いのちのバトンタッチ」

人は必ず死ぬから、いのちのバトンタッチがあるのです  
死に臨んで先逝く人が「ありがとう」といえば

残る人が「ありがとう」と応える  
そんな一瞬のバトンタッチがあるので死から目をそむけている人は、見そこなうかもしれないが  
そんないのちのバトンタッチがあるので

【仏事Q&A】

Q、葬儀と告別式は違うのですか？

一般的に葬儀と告別式を混用したり、同義にとらえたりする傾向がありますが、浄土真宗では本来、告別式という表現は用いないようにしています。

告別式とは、亡くなられた方に別れを告げる儀式のことです。亡くなられた方と別れをする時間のみを告別式という場合もあるそうです。これには宗教的な意味合いは含まれていません。

浄土真宗における葬儀とは、仏縁にあうための儀礼であると考えます。仏縁にあうとは、亡くなられた方も遺された者も、誰もが平等に阿彌陀如来に救い取られるという、お念仏の救いに出あうということです。

阿彌陀如来は救い取ったら、決して見捨てることはありません、なぜならば、阿彌陀如来のお心とは、私たちの悲しみをわが悲しみとし、私たちの苦しみをわが苦しみとする大きな慈悲の心だからです。

また浄土真宗では死を終わりと考えません。この世の縁が尽きて、阿彌陀如来の浄土に往生された方は、すぐさま仏さまに成られ、仏さまとして私たちを導いてくださるはたらきを始められるからです。した

がって浄土真宗には、人の死を別れだけとは考えません。葬儀を執り行うことによって、阿彌陀如来に抱かれる人生を歩み、私もまた阿彌陀如来の浄土に往生し、仏さまに成らせていただくのだと、うなずいていくことが大切であります。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【法要・法座・行事のご案内】

○彼岸会法要修行

九月二十三日（祝・日）午後一時より

\*お勤め 讃仏偈

\*仏教讃歌

（築地本願寺楽友会の皆さん）

著名な指揮者をお迎えし、エレクトーンの演奏によるすばらしい仏教讃歌の合唱と、歌詞の法味を聞かせていただきます。

静かな秋のひと時をご一緒に過ごしましょう。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

○婦人会法座

九月三日（土）午後一時

・ご文章に学ぶ（二帖六通）前住職  
・座談会

\*午前中に予定していた「讃寿の会」は中止いたします。

○壮年会法座

九月十一日（日）午後三時

・御文章解説 住職  
・意見交換

○子育てサロン（パンダっ子）

九月十二日（月）午前十一時〜二時

・昼食をはさんで幼児の遊びと保護者の方の交流の場です。

\*事前予約なし、参加費無料でご参加いただけます。

○教行信証を学ぶ（真仏土巻） 前住職

九月十七日（土）午後二時

今月は第三土曜日に開催です。

ご注意ください。

【お知らせ】

※中原寺文化講演会を開催します！

日時：十月二十二日（土）午後一時半

場所：山崎製パン企業年金会館

（市川駅徒歩三分）

講師：中島岳志氏

（東京工業大学リベラルアーツ教育

研究員教授）

講題：「利他と他力」

コロナ感染拡大により二年続けて中止となりましたが、本年は第三十二回中原寺文化講演会として開催いたします。

ご講師は新聞テレビ等にはしばしば出演されるお馴染みの気鋭の先生です。ご期待ください。

著書：「親鸞と日本主義」（新潮選書）

「思いがけず利他」（ミシマ社）

「自分ごとの政治学」（NHK出版他

【九月の掲示板のことば】

仏教を遠ざけるのは  
直に私を見る勇気がないから